

平成 30 年度（2018 年度）第 6 回庄内地域における新設中学校及び
義務教育学校・（仮称）北校の開校に向けた準備委員会 意見交換概要

開催日時	平成 31 年（2019 年）3 月 22 日（金）19：00～20：30		
開催場所	第十中学校 1 階多目的室	傍聴者数	4 人
出席者	委員	<p>【庄内小学校】林委員、北島委員、増森委員、富田委員、三間委員、村田委員</p> <p>【野田小学校】溪口委員、谷口委員、民部委員、乗光委員 石原委員、藤野委員、佐藤委員</p> <p>【島田小学校】下花委員、須賀委員、米田委員</p> <p>【第六中学校】亀谷委員、川田委員、矢野委員</p> <p>【第十中学校】中北委員、伊原委員、北野委員、島委員、埜口委員</p>	
	事務局 その他	<p>【教育委員会事務局】 田中教育監、井角参事、眞田学校教育課長、野田主幹（計画担当） 濱副主幹、鶴主査、高橋事務職員、大住教育推進コーディネーター</p> <p>【市民協働部】荒木南部地域連携センター長</p> <p>【資産活用部】田島施設整備課主事</p> <p>【(株) 類設計室】喜田</p>	
次第	<p>1. 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）北校の校名及び開校時期について ・（仮称）北校の標準服の検討状況について ・（仮称）北校及び（仮称）南部コラボセンターの施設の検討状況について <p>2. 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の振り返りと次年度に向けて <p>3. その他</p>		
配布資料	<p>【資料 1】義務教育学校の魅力（特色）一覧</p> <p>【資料 2】施設の検討状況に関する資料一式</p> <p>【資料 3】今年度の振り返りと次年度に向けて</p> <p>【説明会資料】（仮称）南部コラボセンターの建設に向けて</p>		

1. 報告

○（仮称）北校の校名及び開校時期について

事務局（資料1についての説明）

- ・（仮称）北校の開校時期について、当初は平成34年（2022年）3月に工事が完了する見込みであったことから平成34年（2022年）4月に開校する予定としていたが、庄内小学校と第六中学校の敷地を一体的に整備できることとなり、施設配置を大きく変更したことから、改めて工程を組み直したところ、校舎の完成が平成34年（2022年）11月ごろまでかかることが判明したため、開校を平成35年（2023年）4月に延期することとなった。工事の進捗状況により、夏休み頃までに引越しが完了するような状況となれば、新設中学校のみを2学期から新校舎に移転する可能性も検討していく。
- ・校名について、まずは、新設中学校の校名を「庄内さくら学園中学校」とする条例案が3月議会で承認された。それに伴い、（仮称）北校の校名についても、今後は「（仮称）庄内さくら学園」と表記することとなる。開校準備委員会の名称についても、（仮称）庄内さくら学園の開校に向けた準備委員会と変更する予定である。
- ・稲津町1～3丁目の調整区域について、庄内地域における「魅力ある学校」づくり計画において、調整区域を解消していくということを記載していたが、（仮称）庄内さくら学園の開校時期にあわせて解消するという方針を対象の4校のPTAの方にご説明をさせていただいた。稲津町1～3丁目は、本来は豊島小学校区であるが、一定の条件下において野田小学校への指定校変更が認められるという調整区域となっている。（仮称）北校の開校をもって、豊島小学校と第四中学校を指定校とするが、開校までに野田小学校や庄内さくら学園中学校に通っていた児童生徒は（仮称）庄内さくら学園に通えることとし、きょうだい関係の配慮も行いたいと考えている。
- ・資料1は、現在検討中の内容であるが、義務教育学校の魅力をまとめたものである。今後、項目をさらに増やし、内容を固めていきながら、開校までに準備を進めていきたいと考えている。

委員長

- ・ただいまの件に関して、ご意見・ご質問等があればいただきたい。

委員

- ・保護者の方からいくつか要望を聞いているので伝えさせていただく。給食について、以前、給食センターの見学に行ったことがあるが、アレルギー対応にかなり気を配って給食の配膳をしていただいていた。7～9年生についても、デリバリーではなくて、同じように給食センターからの給食を食べられる仕組みを作れないのか、できれば7年生以上もセンター方式にしてほしいという意見があった。また、道路にスクールゾーンの設定をしてほしいという意見や、庄内さくら学園中学が開校したときに、三国からのバス通学を考えてほしいという意見を聞いている。

事務局

- ・給食については、全学年のセンター方式についても検討したが、現在の給食センターの調理可能食数を考えると難しい。また、小学生と中学生では必要カロリー等が異なるので全く同じ内容の給食ではなく、おかずを1品増やさなければいけないが、現在の給食センターではそのような対

応ができないと学校給食課から聞いている。

- ・スクールゾーンについては、通学の安全に関わることなので、今後検討していく。
- ・バス通学については、市内でも認めている学校はあるが、それにかかる費用については自己負担である。現状において、明言することはできないが、同様の対応になるのではないかと。

○（仮称）北校の標準服の検討状況について

委員（標準服検討委員会座長）（資料なし）

- ・2月27日（水）に新標準服製造業者選定委員会を開き、4業者によるプレゼンテーションを実施した。選定は、①取り組み姿勢 ②デザイン性 ③機能性 ④素材 ⑤費用対効果という5つの評価項目で行い、瀧本(株)を製造業者として決定した。デザインや機能について、明らかな差異をつけることはなかなか難しかったが、私個人の意見を申し上げると、瀧本(株)の担当者が、庄内の街を歩き、この街の中で子どもたちが標準服を着たときに地域の人たちに新しい学校を認知してもらえるとということを考慮したと言っていたのが心に残っている。業者は決定したが、デザインについては、プレゼンで提示されたサンプルにこだわらず、改めて決めていきたい。夏休み中にはデザインを固めて、みなさんにご披露できたらと思っている。何パターンか作ったうえで、それぞれの学校でファッションショーをし、子どもたちの意見を聞くということも考えている。

委員長

- ・ただいまの件に関して、ご意見・ご質問等があればいただきたい。

（意見なし）

○（仮称）北校及び（仮称）南部コラボセンターの施設の検討状況について

事務局

- ・基本設計が固まり、3月23日（土）と3月26日（火）に市民説明会を開催することとなっている。それに先立ち、その説明会と同内容を本日はご説明させていただく。まずは、両施設の設計について、(株)類設計室から説明をしていただく。

（株）類設計室

- ・ワークショップでは、この庄内の義務教育学校と（仮称）南部コラボセンターでどのようなことを実現したいかという話から始まり、グラウンドや施設の配置についてご議論いただいた。ワークショップ終了後も法的なことや予算的なことも含めて検討し、設計が固まったところである。
- ・設計事務所として、今回の設計について触れさせていただくと、みなさんもご存じのとおり、教育改革の真っただ中であり、授業も学校運営もどんどん変わる中で、当然学校建築というのも変わってきている。建築家として、学校建築を見た場合に、どんな変化が起きているかということ、昔は、教室が規則正しく並んでいて、廊下から教室に入っていくという建築がほとんどであった。そういう学校からどんどん教室の枠を超えて、クラスや学年の枠を超えた活動の場など、多様な環境と関係性の中で子どもたちが育っていくという建築が出来上がってきている。今回の施設の誇れるところというと、やはり（仮称）南部コラボセンターと学校が一体的に整備されるという

ところである。まだ日本の中では学校の枠を飛び出しているものはない。今回、(仮称)南部コラボセンターと学校を一体的に整備することで、子どもたちが地域の多様な関係性の中で育っていき、生きる力を身につけることができる。できあがりは平成35年(2023年)だが、日本でも最先端の学校になると考えている。

南部地域連携センター(資料2・説明会資料についての説明)

- ・(仮称)南部コラボセンターの設計の概要についてご説明させていただく。当初の施設の配置案はA案であったが、現在はC案で設計を進めており、第六中学校の敷地の約5,000㎡に4階建ての建物となっている。機能配置の基本的な考え方としては、1階から年代順に未就学児から多世代までというフロアコンセプトとなっている。従前からの変更点として、当初は図書館を1階と2階に分けて配置していたが、利用者の利便性や施設としての効率性という観点から、2階の1フロアのみに変更している。その関係で、もともと2階に予定していた市民活動・NPO活動支援センターを1階に下ろしている。その他の3階・4階については従前の構成と同様である。
- ・スケジュールについて、(仮称)南部コラボセンターは平成34年度(2022年度)中の開設予定である。来年度は実施設計を行い、着工へと進めていくこととなっている。

事務局(資料2についての説明)

- ・資料2の2ページ目が外観イメージとなっている。上の図は北側から施設を見たイメージであり、右側が学校、左側が(仮称)南部コラボセンターである。下の図は南側から施設を見たイメージであり、右側が学校の大アリーナ、左側が校舎である。
- ・まず、全てのフロアの共通事項として、1階に1・2年生、2階に3・4年生、3階に5・6・7年生、4階に8・9年生の普通教室という、義務教育学校の指導区分として4-3-2制を見据えた教室配置としている。各学年の普通教室の前にはワークスペースを設定し、教室と一体的に活用することで、学級を越えた学びの成果を発信・共有し、主体的・対話的で深い学びを一層推進できると考えている。
- ・各階の平面図については、ワークショップからの変更点を中心に説明させていただく。1階について、ワークショップ時には、1~4年生は登校時に南側から直接教室に入れるようにしていたが、安全面等を再検討した結果、グラウンド側に1~4年生の下足室を、あいさつロード側に5~9年生の下足室を設けている。また、職員室と保健室を隣接させ、連携しやすい配置に、ランチルームと調理室も連携しやすいように隣接させる配置へと変更している。大アリーナの下については、当初は音楽室を配置していたが、音楽室は校舎側へ移動させ、PTA兼地域連携スペースや木工・金工室、武道場としての使用も想定している多目的室を配置している。以前はイングリッシュルームと表記していた外国語教室については、AETの常時配置を見据え、低学年の子どもたちも交流しやすいように4階から2階へと配置を見直している。3階については、特別教室の配置を変更している。4階のプールについて、温水プールや屋根の設置の要望もあったが、費用面等から温水プールについては導入しないこととし、屋根については、水温を一定確保する必要があることなどからプールサイドの一部に設置する予定である。また、耐震性も確保する計画としている。最後に、大アリーナと小アリーナにはそれぞれ冷暖房を設置する予定である。

委員長

- ・ただいまの件に関して、ご意見・ご質問等があればいただきたい。

委員

- ・上田病院が移転するという話を聞いたが、その敷地分はグラウンドが広がるのか。

事務局

- ・上田病院が移転し、更地となるのには時間がかかるので、開校時期に間に合うかはわからないが、将来的にはグラウンドに、例えばテニスコートとして整備することなどを考えている。

副委員長

- ・(仮称) 南部コラボセンターが先に完成する計画となっているが、学校に全力をかけ、優先的に学校の工事を進めれば、これまでのスケジュール通りに完成できるのではないかと考えている。

事務局

- ・お気持ちは理解する。もともと平成 34 年（2022 年）3 月完成というギリギリのスケジュールであったところから施設配置を大きく見直したということがある。また、その他の要素として、働き方改革の流れから、建設業者が当初の想定で 4 週 4 休ではなく 4 週 8 休でないとなかなか仕事を受けてくれないことや、埋蔵文化財の本掘調査に 1 年以上かかることなどがある。埋蔵文化財の調査は工事と並行して行い、なるべく影響が出ないように工期を短くするための検討を行った結果がこのスケジュールである。(仮称) 南部コラボセンターは 4 月開設という縛りがないため、平成 34 年度（2022 年度）中の開設となっているが、学校は 4 月開校という縛りがある。校舎の完成は平成 34 年（2022 年）11 月ごろを目途としている。できる限り工期は縮めたいと考えているが、どうかご理解いただきたい。

委員

- ・市役所の出張所はこれまでの説明通り 3 階に配置されるのか。また、2 階の図書館を利用する一般の方が、学校に自由に出入りしないようにするための仕組みはあるのか。
- ・年度途中で工事が完了した場合、中学校だけでも先に新校舎に移転させるという話があったが、受験を控えていることもあるので、できれば年度途中の引越しはせずに 4 月からの開始で考えていただきたい。

南部地域連携センター

- ・市役所の出張所は当初の計画通り 3 階に配置予定である。また、2 階は(仮称) 南部コラボセンターと学校をデッキでつなぐこととなっているが、平常時は施錠し、自由に行き来することはできない。学校から子どもたちが(仮称) 南部コラボセンターを利用するときは、教員が引率し、鍵を開けるといった運用を考えている。

事務局

- ・開校時期については、年度途中からでも新校舎を使いたいという意見と年度途中の引越しはやめてほしいという両方の意見があるだろう。開校まではまだしばらくあるので、しっかりと検討していきたい。

2. 意見交換

○今年度の振り返りと次年度に向けて

事務局（資料3についての説明）

委員長

- ・グループに分かれて自由に意見を出していただき、後ほど発表していただきたい。

（グループに分かれて意見交換）

委員長

- ・それではA班から順に、どのような意見があったか発表していただきたい。

A班

- ・今年度の開校準備委員会を振り返ると、まだ案だと言いつつもすでに決まっていると思われるようなことが多かった。
- ・心配なことや不安なこととしては、具体的な工事の計画を知りたい、あいさつロードが急になくなるのは困るのではないか、上田病院の近隣の住宅や薬局はどうなるのか、庄内小学校区から野田小学校までの通学路が心配、これまでコミュニティプラザで行っていた活動は工事期間中にどこで行えばいいのか、島田小学校区からの通学で名神口の地下トンネルが薄暗くて危ないというような意見があった。

B班

- ・事務局からの経過説明が不足しているように感じる。標準服のアンケートを保護者から取り、その結果では7年生からの着用という意見が一番多かったのに5年生から着用することとなるのであれば何のためにアンケートを取ったのか、その経緯をちゃんと説明してほしい。校名についても3案に絞った経緯を説明してほしい。私たちは代表としてこの場に出ており、経緯をきちんと説明してもらえないと私たちも保護者の方たちに説明することができない。
- ・子どもたちが（仮称）南部コラボセンターを利用するときには、先生が鍵を開けるという説明があったが、それだと先生の負担が増えるのではないかと。放課後に図書館に行くときにわざわざ先生が鍵を開けないと行けないのであれば負担になるのではないかと。

C班

- ・屋内プールの要望や校名についてなど、意見を聞いてもらえず、すでに全てが決まってしまうという印象を受けたし、そのように思わせてしまうような会議では何も意味がない。ここで

委員のみなさんが納得して帰ってもらえるようなシステムにしなければいけない。

- ・欠席者が多いことが気になる。委員の選出をもう少し考えてもらえればと思う。また、小中学生の子どもを持つ保護者の比率を高めてほしい。
- ・次年度は、ソフト面についてもっと話をしてほしい。公民分館などの地域活動の拠点をはっきりとさせてほしいと思う。

D班

- ・こういう話をもっとしたかったという観点では、(仮称)南部コラボセンターの内容をもっと知りたかった、子ども食堂は実現できるのか、校名決定のプロセスをもっと知りたかったというような意見があった。また、地域団体の代表として開校準備委員会に参加している委員が多いが、実際に地域団体の活動を今後どうするかという話をこの場でするのか、この場でしたとしてもどこまで反映されるのかが明確ではなかったという意見もあった。通学路のことについても同様である。
- ・次年度に向けては、(仮称)庄内さくら学園の教育内容や独自教科についても話をしたい。

E班

- ・結果として、義務教育学校を作りたいのか、(仮称)南部コラボセンターを作りたいのかがよくわからない。
- ・出席者が意見を出しても、決定事項が何故そのように決まったのかがあまりわからない。意見が本当に反映されているのか疑問である。参加する意義を感じられる会議内容にする必要がある。グループワークをするにあたって漠然としたものではなく明確なテーマ設定にしてほしい。また、グループワークばかりではなく変化のある会議を考えてほしい。
- ・様々な分野の人が委員として集まっているのに、その人たちの能力が活かされていないように感じる。校歌や校章などについては、それぞれの専門的な人の参加があっても良かったのではないか。
- ・新しい学校の理念が見えてこないで、庄内地域にどういう学校を作りたいのかということをもっと議論し、理念を作っていくということをもよいのではないか。
- ・金曜日の開催が多かったので、日程をもう少し調整してほしいという意見もあった。

委員長

- ・出された意見に対して、事務局から説明があればお願いしたい。

事務局

- ・運営について至らない点が多々あったことは申し訳なく思う。
- ・B班からの(仮称)南部コラボセンターの利用についての意見だが、放課後に図書館を子どもが利用する場合には、一度下校し、(仮称)南部コラボセンターの入り口から入ることになるので、教員がその度に鍵を開けに行くということはない。授業で利用するときには教員の引率でデッキを通過して(仮称)南部コラボセンターの図書館に行くというイメージである。
- ・工事の計画については、実際に工事が近づいたときに説明させていただく。

- ・通学路については、庄内小学校から野田小学校までを実際に歩いて点検するというをしている。島田小学校からの通学についても今後、同様のことを行っていきたい。
- ・たたき台として案を示さなければなかなか議論は進まないが、それをやりすぎるとすでに決まっているのではないかと思わせてしまうことになり難しさを感じている。しかし、この場では1つの意見に絞ることはできない仕組みとなっている。委員のみなさまの総意として1つのものを作ろうとすると、この委員会を附属機関の審議会としなければいけない。今年は、そうではなくて多様な意見を交換していただこうと考え、スタートしたので、それがかえって「意見が反映されない」「何も決められない」と感じさせることになってしまった。ゆくゆくは審議会のような形に衣替えするか、学校を支えていただく他市のような仕組みに変えていくかということは話をしなければいけないと考えている。
- ・ご意見が多かったので校名を3案に絞った経緯を改めてご説明させていただく。「庄内さくら学園」「庄内みらい学園」「庄内竜門学園」という3案に絞ったが、これは、200件を超す応募をいただいたものの中に、言葉としては全てあったものである。「学園」は、義務教育学校であるということがわかる校名にしたいが、「義務教育学校」はまだ一般的ではないので、わかりやすくするために「学園」としたものである。「庄内」は地域を表し、「庄内」と「学園」の間に入る言葉を応募の中から選んだ。「竜門」は庄内小学校の前身の龍門小学校から、「さくら」は3つの小学校の校章から、「みらい」は「新しい未来をつくる」という願いからである。様々なご意見はあったが、このような理由で3案に絞らせていただいた。3案のうちから「さくら」とした理由は、魅力ある学校づくり通信にも書いている通りである。「竜門」を押す声があることは理解しているが、(仮称)南校の対象校も元をたどれば龍門小学校が起源であり、「竜門」を使用すると1つに集約されるようなイメージになってしまうことが懸念された。これが駄目だというわけではなく、比較検討において、「庄内さくら学園」の方が誰からも親しみやすく良いのではないかと考えた結果である。

3. その他

委員長

- ・委員のみなさんにご協力いただき、今年度の開校準備委員会を運営することができ、うれしく思う。来年度はメンバーが変わるが、(仮称)庄内さくら学園をより良い学校とするため、この開校準備委員会の場がより充実したものとなるよう、今後にご協力いただければと思う。

教育監

- ・委員長、副委員長をはじめ、委員のみなさんにご協力いただきありがとうございました。この(仮称)庄内さくら学園は、隣に(仮称)南部コラボセンターを併設することで生まれてから大人になるまで地域で見守り育てていく、誰一人として取り残さない、そういう学校を作っていきたいと私は思っている。先ほど様々なご意見をいただいたが、その通りだと思う。もっとしっかり説明させていただき、みなさんに応援団となっていただければ、我々もこれからはがんばっていききたいので、どうぞよろしくお願ひしたい。

(以上)